

第2回岩手県地域公共交通活性化協議会県北地域部会 議事要旨

1 日時

平成30年9月12日（水） 14:00～16:00

2 場所

二戸市（二戸地区合同庁舎 1階大会議室）

3 主な議事内容

- (1) 岩手県地域公共交通網形成計画の骨子（案）について
- (2) 県北地域の将来的な公共交通ネットワーク（叩き台）について

4 主なご意見等

- (1) 岩手県地域公共交通網形成計画の骨子（案）について
 - ・ 「公共交通基盤の確保」とあるが、具体的にどの様なものを意味するのか。実際にバスを運行するためには、運転手や車両の確保が必要となる。
⇒（事務局）運転手不足については、昨年度の検討会議の取りまとめ結果に取り上げられており、今後検討していきたい。
 - ⇒利用促進のためにはバスロケや交通系 IC カードの整備等が必要となることから、可能であれば計画に盛り込んでいただきたい。
 - ・ 最も必要とされるのは、地域に入って交通をコーディネートする人材だが、非常に少ないため、育成の意味合いも含めた表現にしていきたい。
 - ・ 県の観光計画における公共交通の役割については、どのような方向性か。
⇒（事務局）県の観光計画については、策定作業が始まったばかりであり、公共交通についての具体的な書き込みはまだ見られない。
 - ・ 住民は、二戸病院へ乗り換えなしでの通院を望んでいる。そういった意見が県の網形成計画には反映されるのか。
⇒（事務局）バス事業者と相談する必要があるかと思う。
 - ・ 市町村を跨いで住民の移動が、県立病院内部の事情（県立病院間の役割分担等）に絡んでいるものであり、それを理由に交通網の見直しを行うことは可能か。

⇒（事務局）もしそのような需要があるということになれば、考える必要があるが、IGR との兼ね合いも考慮する必要があるため、今すぐにお答えすることは難しい。

- ・ 基幹病院が二戸病院という体制となっているが、診療科の問題や医師の配置等といった、比較的短期で変動する要素があることから、計画には具体的に書きづらい部分ではある。

- ・ 学校についても、網形成計画の期間中に 新しい高校再編計画をまとめる動きが生じる場合もあることから、具体的な動きについては書きづらい。
⇒（事務局）具体的な表現にはならず、今後も検討を続けていく、といった書きぶりになるかと思う。

⇒医療や教育それぞれの計画期間を意識しながら策定する必要がある。

（２）県北地域の将来的な公共交通ネットワーク（叩き台）について

- ・ 二戸-久慈間を運行しているスワロー号について、生活路線としての利用も増えてきているため、県の網形成計画における公共交通ネットワークに盛り込んでいただきたい。

⇒（事務局）都市間バスは補助対象外ではあるが、拠点間・振興圏間を結ぶ重要な路線であることから、計画には盛り込んでいきたい。

- ・ 大野線については、県北バス、県北広域振興局、久慈市、洋野町の４者で情報共有や利用促進策の協議を月１回程度行っており、それが補助要件の維持にもつながっていると考える。

- ・ 平庭高原線は、以前は起点から終点までの利用が主だったが、現在は沿線市町村間や沿線市町村内での利用の方が多くなっている状況。

- ・ 網形成計画の基本方針の中で、「乗りたくなるサービスの提供」という項目があり、この場合「速達性」がキーワードになると考えている。通院や通学だけでなく、観光の面でも速達性が確保されていれば利用しやすい。

- ・ 結節点について、一戸町・久慈市・普代村では道の駅の整備の話が進んでいる。網形成計画の策定期間にもよるが、「(予定)」といった表現で結節点としてもいいかもしれない。

- ・ 通院時の乗り換えのないバス利用について、バス事業者と相談する必要があるとのことだったが、そのような路線を確実に残すことが県の網形成計画には記載されるのか。
- ⇒（事務局）利用実態を確認する必要があるが、通院は大きな要素であるため、維持していく必要があると基本的には考えている。